

## 普仙寺だより

<<

>>

第161号 平成20年11月



平成20年10月28日 第37回東海詠唱大会  
伊賀市文化会館で成果発表をする普仙寺吉水講員

### 第37回詠唱東海大会

去る10月28日、伊賀市文化会館で開催された、第37回詠唱東海大会に参加し、「秋の御詠歌」をお舞をつけて発表しました。

#### 舞

岡田 里見さん、岡田 命恵さん、加藤 桂子さん

#### 詠題

牧野 恵子さん

#### お唱え

神山 和子さん、岡田 さとえさん、谷山 八千代さん、鈴木 とめさん、  
白井 勝子さん、黒柳 花子さん、西郷 嘉寿美さん、牧野 せい子さん、  
牧野 まつゑさん、西郷 信代さん、加藤 良子さん、小林 みち子さん、  
岡田チエコさん、藤田 みち枝さん、杉本かつさん、神山 盛二さん、  
杉浦 幸子さん、杉浦 きく子さん、牧野 正代さん、柴田 佳恵さん、  
加藤 良光

#### 見学

杉浦 志づゑさん、谷山 きくさん

### 現代往生人記 杉浦秋次郎氏の生涯と最期～知恩2008年7月号

#### 往生人

◎俗名 杉浦秋次郎

◎法名 秋光院法誉道心明念音清居士(愛知県豊橋市・普仙寺檀徒)

明治36年(1903)11月25日、愛知県豊橋市牟呂の半農半漁の家に長男として生まれる。若くして養鰻業に着手し、苦勞の末に事業化に成功(この地の養鰻業のさきがけの一人)。三河湾と神野新田との境にある堤防上に設けられた三十三観音への供養を欠かさず、感謝の気持ちで念仏の日暮らしを送り、平成12年1月28日、小春日和のうらかな日に、ポックリと往生された(享年満96歳)。

(写真:在りし日の秋次郎さんと妹さん)

○語り手=杉浦昭吉(81)・けい子(77)…秋次郎氏の長男夫妻

○聞き手=本誌編集部(晋)



“元気でポックリ逝きたい”

——高齢の方たちがよく口にする憧れの最期の姿である。しかし、それをもって「往生」と呼ぶのではない。大切なことは、その最期が日々の念仏の延長線上にあったかどうか——。

陽だまりのなか、まどろむようにして往った今回の往生人も、平生の念仏を欠かさない人だった。

### 散髪の中の往生

「病気でどうこういうのは一回もなかったよ」

杉浦昭吉さんは、父・秋次郎さんの最期を、三河なまりで語り始めた。

「土曜日だったかな、ワシが『おじいちゃん、今日はぬくたいで、頭つもうろか』って言って、昼ご飯を食べた後に縁側で散髪しとったじゃん。そうしたら、おじいさんの気分がちよっと悪いだなあ。半分つもりがけで休ませたじゃん。ほいで、そこに寝転んで、寝返り打って、こっちのほうを見たら、それでスミだ。おどけちゃって(驚いて)、オイオイ言っても返事がないから、救急車呼んで市民病院に行って診てもらったら、『老衰だね』って。本当におじいさんは極楽、あんな幸せな人はない」

(写真:秋次郎さんの思い出を語る昭吉さん・けい子さんご夫妻)

それは平成12年1月28日、小春日和のうらかな午後のことだった。

22年ほど前に妻の花代さんに先立たれてから、秋次郎さんはずっと独り暮らしで、食事の世話などは、近くに暮らす昭吉さんの妻・けい子さんに頼っていたが、その他のことは自分でこなし、悠々自適の生活を送っていた。2週間に1度ほど昭吉さんが缺を持ち、96歳の父の頭を刈るのが習慣になっていたようだ。



### 三十三観音への供養

明治36年(1903)生まれの秋次郎さんは、豊橋市牟呂の半農半漁の家に生まれ、昭和に入ってこの地で盛んになった養鰻業に父・栄吉氏とともに着手、苦勞の末に成功を収めた。

日中戦争、太平洋戦争と2度召集を受けたが、無事生還し、昭吉さんを含め2男2女を育て上げた。高額寄付をしたり、菩提寺の筆頭総代を務めたりと、地域への奉仕も熱心で、「人のためによく尽くす人」と評せられる地元の名士だった。

(写真:菩提寺の普仙寺の「土曜礼拝」で念仏を唱える昭吉さん。隣りは幼なじみの神山盛二さん。)

その秋次郎さんが現役を退いてから日課にしていたことが2つある。1つは朝夕の念仏のお勤め、そしてもう1つが近くの神野新田堤防に設けられた三十三観音の供養である。

牟呂地区では、三河湾に注ぐ豊川がつくった干潟に中世から開拓が試みられていたが、江戸期に入ると大規模な新田開発が何度も繰り返され、広域の水田地帯がつくられ始めた。明治に入っても開発は続き、神野新田などさらに広大な新田が造成されたが、この水田を水害や塩害から守るために全長4キロにも及ぶ堤防が築かれた。



そして、この堤防の傷を早期に発見し、決壊を未然に防ぐ妙案として設けられたのが三十三観音の安置だった。『牟呂吉田村誌』はこう綴っている。

(写真:三十三観音は、今、堤防工事のために近くの寺院に仮安置されている。)  
「新田住民の信仰心を興し、且つ参詣巡拝する者が堤防の瑕疵を発見した場合、何十何番観音の右または左と知らせ、また出張する者の便利な為で、この計画は非常な人気を呼び(中略)悉く篤志者の寄付によって安置することが出来た」

秋次郎さんは、早い朝食をとると、毎日、自転車に乗って観音さんに詣でた。

『観音様が一人で寂しいで』と言うちゃあ、出かけて行きました。気の向いたときは、そこいらに咲いている花を摘んでね。『牟呂の方を向いて、村の人々が栄えるように見守ってくれてあるのが観音様や』言うてね」

(写真:昭和42年(1967)、普仙寺檀信徒で知恩院に信仰奉仕したときの記念写真。前から2列目、中央左に当時63歳の秋次郎さんが見える(右上は拡大写真)。)



## 八百年大遠忌まで

この観音様へのご奉仕は、今は昭吉さん夫婦に引き継がれている(昭吉さんたちは自転車ではなく、車で回るそうだが…)。

「おじいさんが、いつどうしてそういう信仰を持つようになったのかは分かりませんが、お寺の無縁仏も懇に供養しておったし、念仏も、どんな用があっても絶対忘れないで朝晩お仏壇の前で称えておりました。ワシも今になって、親父は本当に信仰心が篤かったなと思います。ワシもそれに習おうと、家内と一緒にお花を作って観音さんにお参りしとるんです」

昭吉さんは昨年、80歳を迎えて、知恩院御忌大会の高齢者招待を受けたことを大変に有り難く思っていてくださる。

「八百年大遠忌まで頑張りたい。そのときにお参りがしたい。それが第一の希望です。お念仏を称えることも第一。その気持ちをもって往生できたら最高です」

昭吉さんは、はっきりした声でそう結んだ。

## おてつぎ信行奉仕団

去る10月15・16日に第42回豊橋組おてつぎ信仰奉仕団に参加して来ました。

参加者は次の皆さん。

岡田 芳視(17)、大木 則子(16)、今泉 千代栄(16)、  
杉浦 敏子(6)、河合 正恵(4)

(カッコ内は回数。敬称略)



写真: 左から杉浦敏子さん、河合正恵さん  
今泉千代栄さん、大木則子さん、岡田芳視さん

## 寺行事案内

### 土曜礼拝 (どようらいはい)

毎週土曜日 午前8時30分～9時

礼拝を含むお勤めです。本家、新家の別なく、どなたでもお参り下さい。

#### ◇内容

1. 浄土日常勤行式
2. 法然上人御法語拝読
3. 住職の法話

#### ◇法然上人御法語の予定

11月10日からは

- 後編第9章 至誠心
- 後編第10章 深心
- 後編第11章 回向発願心
- 後編第12章 二河白道

### 月並法要 (つきなみほうよう)

平成20年12月8日(月) 午後7時より

年回忌の祥月にあたる方のご回向をいたします。

### 成道会 (じょうどうえ)

平成20年12月8日(月)

お釈迦さまがお悟りを開かれた日。「成道讃」をお唱えしてお祝いします。